

## ヴェローナ (Verona)



ヴェローナは、ヴェネツィアと一緒に2008年の12月に訪れたのですが、その後は、通過するだけでヴェローナ駅周辺以外には行きませんでした。今回、ヴェローナのアリーナで行われる野外オペラのチケットを入手できたので、久しぶりにヴェローナの街を散策しました。ヴェローナの市街地は2000年に世界遺産に登録されて以来、超人気の観光地となっています。ディズニーランドのような中世の街並みと、ロミオとジェリエットの世界は、特に、日本人の女性に大人気です。

古代ローマの街として栄えたヴェローナは、中世においてはスカリジェリ家（デッラ・スカラ家）の支配になります。その後、ヴィスコンティ家、カッラーラ家と続き、ヴェネツィア共和国に吸収されてしまいます。従って、今でも、ヴェネト州に属しているのです。

ヴェローナは既に一度訪れていますので、今回は、街の中心部（アリーナ周辺とエルベ広場）を歩く簡単な観光とするつもりでしたが、ホテルに荷物を預けてアリーナのあるブラ広場に来ると、ヴェローナに来たのだと感慨がこみ上げてきました。この街の旧市街は、本当にどこに行っても、“ここはヴェローナだ”と感ずることが出来て、さすがに世界遺産であると感心してしまいます。特に、今回は夏のヴェローナですので、記憶にある冬のヴェローナと違い、明るいヴェローナを見ることが出来ました。アリーナの周りには、野外オペラの舞台装備が仮置されて、前日のオペラのトゥーランドットからこの日のアイダの舞台装備への模様替えが盛んに行われていました。その周りには、既に観光客があふれています。この時期のヴェローナは観光客が一番多いのかもしれませんが。



2度目でも、やはりヴェローナを満喫したくなってしまいました。ヴェローナカードの1日券（10ユーロ）を購入して、まず、前回は見えていないブラ広場の入り口にあるマッフェイアーノ博物館で、ギリシャ時代とローマ時代の遺跡のコレクションを見ました。この博物館は、観光には絶好の場所にあるのに、アリーナに隠れて目立たないためかあまり観光客も来ないようですが、かなりのコレクションがあります。それに加えて、きれいな中庭には、ローマ時代の建物風の宮殿と数多くのコレクションが並べられていて、ここも捨てたものではありません。



ヴェローナでの昼食は、やはりスローフードでした。カタツムリとワインのマークのついた **Al Bersagliere** という名のレストランが、ブラ広場から東に行ったところにあります。初めて行ったのですが、大きな通り（パッローネ通り）に平行な一歩奥に入った通りにあり、対して苦労せずに見つけることが出来ました。パスタは、ヴェネツィア料理の“**Paste e Fagoli**”と **Pici** のようなパスタを使った“**Bigoli**”で、両方とも非常に美味でしたが、メインで食べた馬肉のシチュウーのような煮込みは、馬肉の臭みは全くなく更に素晴らしい味でした。この店のご主人は、料理人として幾つもの賞を獲得した人のようで、店には賞状がいっぱい飾ってあります。もう一つ驚いたことは、このご主人の息子さんは日本語を話せるのです。わざわざ、ご主人が息子さんを呼んでくれて話をしましたが、息子さんは、6ヶ月住んだ日本がかなり懐かしいようで、ここに居ると日本人のお客さんが少なくて、日本語をどんどん忘れてしまうと嘆いていましたのでちょっと同情しました。しかし、この日本好きの息子さんが、偉大な料理人のご主人の後を継ぐことが出来るかどうかの疑問も残りました。



レストランで満腹になった後は、この近くにあるジュリエットの墓を初めて見に行きました。ここも

ヴェローナではマイナーな観光地です。お年寄りのガイドさんが流暢な英語で説明してくれましたが、実は第2次世界大戦で破壊された現在修復中の古い教会を博物館とし、この古い教会の絵画や聖遺物を展示しています。この教会にジュリエットの墓があるのはたまたまだったようです。破壊されずにわずかに残っていたのは、教会の礼拝堂とジュリエットのお墓なのです。ジュリエットの家と違って、ここには、観光客もほとんど来ないのですが、こっちのほうが感じるものがありました。



ジュリエットのお墓を見たら、やはり、ジュリエットの家も見なくてははいけません。ブラ広場に戻り、エルベ広場までの観光客でいっぱいのメインストリートにある店をひやかしながら、エルベ広場に出ました。広場の中は露天商の店が並んでいます。ここの光景は冬も夏も変わりません、



エルベ広場からジュリエットの家は直ぐです。ここは、相変わらず、観光客でいっぱいですが、入り口にはジュリエットへのメッセージを書いた紙がいっぱい貼ってあり、ジュリエットの家バルコニーと庭先の銅像の周りは観光客で埋め尽くされています。ジュリエット像の右胸は、観光客に触られ過ぎて磨り減って小さくなっていました。ジュリエット像の胸と言えば、家の中に飾ってある胸を露出してロメオを呼んでいるジュリエットの絵は、どう理解すべきなのか、未だに理解不能です。



エルベ広場の近辺には、ロミオの家もありますが、ここは、今でも個人の住居で家の中を見ることが出来ません。でも、ロミオの家の中まで見たい観光客は少ないでしょうね。それより、前回来たときは修復中であったスカリジェリ家の聖廟が立派に修復されて公開されていました。こっちのほうが観光客をひきつけているようです。



ホテルに戻り、簡単に着替えを済ませて、いよいよ野外オペラです。ホテルに泊まっている人全員が野外オペラに行く人でした。ホテルの小さなロビーには、盛装したご婦人たちが数人話をして居ました。この時期の週末は、野外オペラのためにこのあたりのホテルはどこも超満員のようです。アリーナの近くにはもう野外オペラの観客でいっぱいです。オペラの前に食事をしている人で、広場のカフェも満員です。盛装している人は観客の20%程でしたので、ちょっと安心しました。でも、オペラ鑑賞には、上着くらい持参したほうが良いようです。簡単な夕食を済ませてアリーナに入ると、既に8割の人が席についていました。さあ、オペラの開演も間近です。この日の題目はアイダですので、舞台の真ん中にはピラミッドが座り、その周りには古代エジプトの装飾が来ています。観衆もざわざわとしてきて開演を待ち望んでいるのが手に取るようにわかります。



野外オペラは9時15分に予定通り開演しました。途中2回の幕間があり、夜12時15分まで約3時間のオペラでした。主役のアイダは、嬉しいことに細身のオペラ歌手でアイダに相応しい体系でした。細身でしたが、その素晴らしいソプラノは観衆を魅了するのに十分でしたので、観衆の拍手も彼女に対するものが一番大きなものでした。最終幕では、少しばかり眠気をこらえるのが大変でしたが、最後までオペラの雰囲気をつぶりと味わうことが出来ました。正に、この夏のメインイベントに相応しいオペラ鑑賞です。また、野外オペラでは、野球のナイター見物のように、幕間に飲み物の売り子が観客席の間を売り歩いています。但し、舞台前の高価な席の観客（ほとんどが盛装しています）にはカフェが用意されていて、ちゃんとシャンペンもありました。しかし、全体的には、観客もくつろいだ様子で、ミラノのスカラ座のオペラとは明らかに違っていています。最後に、観客から、“ビバ、ヴェルディ” との声が上がり、大きな拍手で終演となりました。



オペラが終演してもアリーナの周りはその余韻を楽しむ人がカフェに座りこみ、飲み物や遅い食事をしています。我々は、明日の朝からトリエステに行きますので、オペラの余韻に浸りながら夜道をホテルに向かいました。これで、ヴェローナの長い一日は終わりです。交通ストのおかげで、充実したスローフードの昼食付きヴェローナ観光となり、最後には、オペラという最高のパフォーマンスを鑑賞できて、大満足の1日となりました。

この日は、イタリアではお馴染みの交通機関のジェネストでしたので、交通機関がストに入る前にミラノ中央駅まで出て、朝9時5分のユーロスター（17.5ユーロ）でヴェローナには朝の10時半に入りました。もともと夕方にヴェローナに入ることにしていましたので、特に、観光の計画もなく、街をゆっくりと回りました。でも、世界遺産のヴェローナは見るところも多く、1日券のヴェローナカード（10ユーロ）は有益に使うことが出来ました。博物館等の入場料は、4.5ユーロくらいですので、少なくとも3つ入れれば元を取れてしまいます。交通機関利用もヴェローナカードでフリーでしたが、この日はストの影響もあり、路線バスの数が少ない上に、ほとんど歩ける距離でしたので利用はしていません。ヴェローナの街は、やはり、歩いて回るのが一番です。旧市街は、どこを歩いても中世の香りが漂うヴェローナなのです。ヴェローナが好きだという人が多い理由がわかります。